

アクティブ・ラーニングの視点からの授業設計

1 対象（実施を想定する学校・児童生徒の概略）

知的障害特別支援学校 中学部1年 編み班 9人

言語指示を理解したり、手順表を見たりして活動できる生徒がいる。また、実演や写真等を提示したりすることで、活動に取り組むことができる生徒もいる。コミュニケーション面では、言葉で指示理解や表現ができる生徒もいるが、全体で話を聞く場面では内容を捉えることが難しく、個別の言葉掛けや絵で伝えるなどの支援を必要とする生徒もいる。技能に関しては編む、かがる、輪を通すという工程があり、ほとんどの生徒は編む、かがる、輪を通すことができる。

2 教材のねらい（単元としてのねらい、単元の中の位置づけ、生徒に期待する学習など）

単元名：家族のためにキーホルダーとたわしを作ろう

- 単元のねらい：・家族が製品を使い、喜んでほしいという気持ちをもって、時間内自分の役割に取り組むことができる。（主体的に取り組む態度）
- ・家族のためにキーホルダーの材料の色を選んだり、水筒たわしの使いやすい形を考えたり、選んだりすることができる。（思考力・判断力・表現力）
 - ・手順を守り、編み目（方向と力加減）をそろえ、きれいに作ることができる。（知識・技能）
- 本時のねらい：・家族のために製品を作ることが分かり、家族に喜んでもらいたいという気持ちをもって、自分の役割に取り組むことができる。（主体的に取り組む態度）
- ・保護者のアドバイスを参考にしやすい水筒たわしやキーホルダーの形を考えたり、材料の色を選んだりすることができる。（思考力・判断力・表現力）
 - ・手順を守り、編み目（方向と力加減）をそろえ、きれいに作ることができる。（知識・技能）

3 授業の展開（本時：1/9時間）〇月〇日 9：45～11：00

		時間配分
解決したい課題や問い	「家族のためにキーホルダーと水筒たわしを作ろう」 ・保護者のアドバイスを参考にしたデザインを理解して色を選んだり、使いやすい形を考えたり、選んだりする。	導入 (10分)
授業開始時に想定される児童生徒のあらわれ ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に学習に取り組む態度	・自分達が作った製品を褒めてくれたり、喜んだりしてくれる人がいて嬉しい。今度は、家族のために、キーホルダーと水筒たわし作ろう③ ・使いやすい水筒たわしにするためにはどの形がいいのかな？①② ・水筒たわしやキーホルダー使って、喜んでもらうためにはどの色や形がいいのかな？①②	

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C	展開1 (30分)
家族の写真	2種類の水筒たわし	単元マップ	
想定される活動	想定される活動	想定される活動	
・家族の喜ぶ顔を楽しみにして材料の色を選んだり、使いやすい水筒たわしの形を考えたり、手を休めずに作業に取り組む。	・透明の瓶を洗いながら、たわしの部分が底まで届くか、力が入るかなどをつぶやく。	・本単元は家族のために作ることを理解して、渡したい人のことを考えて色を選んだり、製品を丁寧に作ったりする。	
教師の押さえ	教師の押さえ	教師の押さえ	
・作業担当者やプレゼントする家族が分かるように顔写真を提示し、自分で確認できるようにする。	・実際に使い、磨きやすさ（持ちやすさ、力のいれやすさ）を考える。生徒のつぶやきをひろって、班全体で共有する。	・誰かのために作ることは、製品を使う相手が喜んでくれるように作ることを伝える。	

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）		展開2 (25分)
「家族のためにキーホルダーと水筒たわしを作ろう」 ・初めて作業学習に取り組んで緊張したけど、製品が出来上がったときはとても嬉しかった。クラスの先生や友達も褒めてくれたし、家族にも褒めてもらえたよ。 ・2学期は何を作るのかな。 ・〇〇さんのお母さんから「こうするともっと使いやすいし、私も欲しいよ。」と言われたから、使いやすい形を考えてみよう。 ・〇〇のためには、何色がいいかな？		

学習の成果	・家族のためにキーホルダーと水筒たわしを作ろう、家族に喜んでもらいたいという思いをもって取り組むことができる。 ・使いやすい形を理解して家族のために作ろうという思いをもって取り組むことができる。	まとめ (10分)
授業終了時に想定される児童生徒のあらわれ ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に学習に取り組む態度	・家族のために作ることが分かり、家族に喜んでもらいたいという気持ちをもって、自分の役割に取り組むことができる。③ ・家族のために色を選んだり、使いやすい形を考えたり、選んだりすることができる。①②	

アクティブ・ラーニングによる授業実践記録

解決したい課題や問い



○解決したい課題を提示した場面について

単元マップを用いて、年間のテーマ「働く人になろう」、これまでの単元、本単元の「家族のために作ろう」を示したことで、本単元の目的が明確になり、家族のことを考えて材料の色を選んだり、製品の形を考えたりすることができた。

★課題についての教師の評価

本単元での目的や1年の目的について理解し「家族のために作ろう」と意欲をもつことができた。グループで、解決したい課題を共有するために全体で話を進めたが、個々の理解力に応じた共有の方法について、再考する必要がある。

考えるための材料



○考えるための材料を活用しながら学習に取り組んだ場面について

力を入れやすい形や水筒の底部分を満遍なく洗うことができるかということを考える姿が見られた。「こちらの方が底部分まで力が入る」「こちらの形の方が底部分全体を洗える」などのつぶやきが聞かれた。

★材料についての教師の評価

これから作ろうとする製品を実際に自分で使ってみることで、自分達を作る製品の価値を自分で確かめる、使う家族のことを考える機会となった。

対話と思考



○対話や思考した場面の様子について

家族のために製品を作ることを理解し、家族の好きな色を考えて材料の色を選ぶ姿や、水筒たわしのどちらの形が使いやすいかを考える姿が見られた。

★対話や思考の場面についての教師の評価

家族が使う、家族のために作ろうという点をおさえたことで、家族が使って、喜んでもらうためにという視点で製品の色や使いやすい形を考えることができた。

学習の成果



○学習の成果を実感した場面の様子について

「お母さんのために作るから〇色。」「この形の方が底部分に力が入る。」など自分の考えをグループ内で発表し、共有できた。

★学習の成果について教師の評価

家族のために作るということを具体的に誰のために作るのか、どの色や形にするかを定めることで、家族のためにがんばろうという意欲を高めることができた。

アクティブ・ラーニングの視点による授業実践を振り返って(もう一度同じ授業を行うとしたらどこを改善するか)

○成果と課題

初めて、誰かのために取り組む単元であるため、誰のために作るのか、相手が喜んでくれるためにはどのようにすれば良いのかを丁寧に考えた。その中で、生徒が家族のために色や形を考え、意欲を高めることができた。しかし、製品の質として、綺麗に編むために、力加減を調整することや方向をそろえるというところまでの意識をもつことは難しかった。綺麗に編むための方法を作業のポイントとしておさえ、生徒に分かるように伝え、どのような編み方が良いかを生徒自身が意識できるようにしたい。